

(別紙様式)

(A3判横)

# 平成28年度 学校自己評価システムシート ( 県立浦和西高等学校 )

目指す学校像	自主自立の精神を生かして、国際社会に貢献できる人材を育成し、地域に信頼される進学校
--------	---

重点目標	1 確かで高度な学力を確立し、第一志望を実現する質の高い授業の実践 2 地域に信頼され貢献できる生徒の育成 (信頼される人間力の育成) 3 たくましく健やかな心身の育成と自ら考え行動できる生徒の育成
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	12名
	生徒	4名
	事務局(教職員)	11名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。  
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価							学 校 関 係 者 評 価	
年 度 目 標				年 度 評 価 ( 2 月 1 日 現 在 )			実 施 日 平 成 2 9 年 2 月 1 8 日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等
1	国公立大学・難関私立大学への現役合格者数が年々増加してきている。より高いレベルで生徒の第一志望を実現するためには、質の高い授業の実践が必要である。	高い志と学力を持ち、最後まで諦めることなく第一志望実現に挑む生徒を育成する。 生徒一人ひとりの進路希望を実現する質の高い授業を実践する。	1 高い志と学力の育成・第一志望の実現 ①大学出張講座・講演会の開催 ②知の基盤形成事業・サイエンスアカデミー事業への参加 ③組織的な進路指導体制の構築と取組の実践 ④進路情報の積極的な提供、進路相談や個別面談等の実施によるきめの細かい進路指導 ⑤校長による全学年生徒面接 ⑥ビブリオバトルへの参加、授業での図書館利用等を通じた読書活動の充実  2 質の高い授業の実践 ①生徒による授業評価アンケート・西高 CAN-DO リストを活用した PDCA に基づく授業改善 ②授業見学・研究授業・学校間交流・研修会等による授業改善の取組の推進	1 高い志と学力の育成・第一志望実現の状況 ①国公立・難関私立大学現役合格者数:10%増加 ②事業参加生徒数:50名以上 ③貸出図書数:10%増加  2 授業改善の状況 ①授業満足度:85%以上 ②西高 CAN-DO リスト:達成率 85%以上 ③参加教員数:10%増加	1 国公立大・難関私立大学を希望する生徒が増加している。 ①大学出張講座に代わり、大学生出張講座を実施した。 ②サイエンスアカデミー11回実施(のべ783名参加) ③④進路指導部を軸に、3学年団と連携し取り組んだ。国公立大現役合格者数は8名→昨年度4名(12月現在)。センター試験は97%が受験(385/395)。5教科7科目受験者は32%であった。 ⑤校長による全生徒との面接実施。 ⑥ビブリオバトルには、1年生全員参加。本に興味を持った生徒は増えたと思うが、貸出図書数は若干減少。 2 授業評価アンケート・西高 CAN-DO リスト・授業相互見学により、授業の質が向上した。 ①授業満足度 83.6%・西高 CAN-DO リスト達成率 73%と目標値を下まわった。 ②授業相互見学のべ252回実施。	B	・「名門浦和西高復活」の実現に向け、現状に満足することなく、さらなる組織的な進路指導体制の構築と、質の高い授業に取り組んでいく。  ・シラバスを各学年毎に作成することで、第一志望実現に向けて、更なる学力向上を目指す。	・大学生による出張講座は素晴らしい取り組みである。 ・大学名だけで進路決定をするのではなく、大学に入ってから輝くことができる進路選択が必要である。そのような中、今まで進学する生徒がいなかった大学への進学が増えたのは、生徒が本当にやりたいことを見つけられるよう先生方が粘り強く指導した成果ではないか。 ・勉強時間だけではなく、勉強の質にこだわった指導をお願いしたい。
2	本校に対する地域からの評価が高まっている。これまで以上に信頼を高めるためには、生徒が地域や社会に貢献するとともに、学校情報を積極的に発信していく必要がある。	情報量の維持とともに質(内容・適時性・ニーズ等)の高い情報を発信して、地域に開かれた学校づくりを推進する。 自ら率先して地域との交流や社会貢献活動に取り組むことができる生徒を育成する。	1 本校の魅力・取組・生徒の活動の発信 ①学校通信の毎月発行 ②ホームページの随時更新・外部メディアへの情報提供 ③中学校訪問及び本校への訪問促進 ④学校説明会・土曜公開授業等の活用  2 地域との交流活動・社会貢献活動の拡充 ①小学校・中学校・高校・特別支援学校等と連携した交流活動の実施 ②地域との交流活動(斜面林友の会・地元自治会等)の実施 ③社会貢献活動(ボランティア・被災地支援等)への参加促進	1 情報発信の状況 ①ホームページ ・更新:月間20回以上 ・アクセス数:50万回以上 ②外部メディアへの情報提供:50件以上 ③来校者:10%増加 ④入試倍率:1.50倍以上  2 社会貢献活動等の状況 ①小学校等との交流活動: ②地域との交流活動: ③社会貢献活動: 参加生徒数 10%増加	1 様々な情報発信の結果、多くの来校・本校の理解を得た。 ①学校通信を毎月発行し、市内中学校・地域に配布できた。 ②ホームページを随時更新できた。 ③中学校訪問は126校実施。中学校PTA来校者は、14校815名で昨年比84名増加。 ④学校説明会全7回実施、参加者は3702名で昨年度比158名減。土曜公開授業は全14回実施。 2 地域社会への貢献について、生徒の意識は高まっている。 ①小学校交流は、24名の生徒が参加。中学校出張授業には、教員10名参加。特別支援学校との清掃活動交流を実施。 ②斜面林友保全活動に生徒約50名参加。 ③県事業での被災地訪問に生徒4名参加。	A	・より本校を理解してもらうために、引き続き、情報発信の工夫・向上に努める。  ・地域との交流活動を数多く体験させるため、積極的に働きかける。	・中学校出張授業等の活動で、生徒は西高に親しみを持っている。 ・小学生にとって、高校生との交流は、先輩としてのモデルケースに触れ将来のことを考える良いきっかけになるので今後も継続してほしい。 ・さいたま市以外の小中学校の児童、生徒、保護者にとっては西高に対する意識は低い。管弦楽部など部活動との交流を増やせば、西高に対する意識が高まるのではないか。 ・後援会の活動に現役の生徒、先生、卒業生、地域の方々にも参加していただくために、HP等の情報発信をより充実してほしい。
3	自主的・主体的に節度ある学校生活を送る生徒が増加してきている。 真の「自主自立」を実現するためには、自ら考え行動する生徒を育成する必要がある。	部活動や生徒会活動に積極的に参加し、学習面・生活面で自己管理する能力を持ち、自ら考え行動できる生徒を育成する。	1 自己管理能力の育成 ①朝学習・家庭学習の奨励・支援 ②部活動・生徒会活動・学校行事の充実 ③自己管理能力(目標・時間・生活)の育成  2 グローバル(異文化理解)教育の推進 ①オーストラリアとの交流 ②留学生の受入、海外派遣事業への参加	1 自己管理能力の状況 ①授業以外の自主的学習時間(朝学習・家庭学習等):20%増 ②部活動加入率:95%以上 ③生徒会活動・学校行事:執行部参加生徒数 10%増加  2 推進の状況 ①海外派遣・異文化交流:応募・参加生徒数 10%増	1 自己管理できる生徒が確実に増加。 ①朝学習には全生徒出席し定着している。家庭学習については、4月当初からは増加しているものの、目標には届いていない ②部活動加入率は、98%。関東大会に女子バスケ部、東日本大会に弓道部が出場 ③生徒会本部役員の希望者が減少傾向である。 2 文化交流を経験する生徒が増加傾向である。 ①オーストラリア研修に22名派遣。その他にも県の事業等5名参加。 ②3月に埼玉国際サッカーフェスティバルの国際交流事業として、本校にマレーシアチームが来校予定。	A	・更なる朝学習の充実と、家庭学習の定着を目指す。  ・生徒会本部役員への立候補者を増加させる。	・「自主的」な生徒は、自らの役割を果たせる生徒。「主体的」な生徒は、自ら動くことができる生徒。西高生には主体的に動ける生徒になって欲しい。 ・生徒会活動が年々厳しくなっている印象がある。生徒会本部には、一般生徒が生徒会を利用できるような体制を確立してほしい。